

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.119

AA日本常任理事会

## ゼネラルサービス評議会後の活動経過と報告

## 広報・病院施設委員会からの報告

消費税を含め改訂した出版物カタログの需要(セントラルオフィス、関係者)が予測以上に伸展したので5,000部(76,650円)増刷し3月よりJSOで対応しています。

「広報&病院施設フォーラム」の実行委員会は、7月23日に地元メンバー、地区・地域メンバー、JSO所長、担当理事が参加して、5回目の会議を開催しました。10月7日の開催に向けて各地区のメンバーが当初より積極的に参加しています。また、2007年度の開催地域として九州沖縄地域から立候補の届けがありましたことを報告させていただきます。

6月末日までにと各地域に呼びかけていた、「全国矯正施設フォーラム」の開催は、地域からの立候補がありませんでした。次善策として考えていた関東甲信越地域に開催のお願いをしています。(詳細は第11回評議会報告書59頁第6回全体会議を参照してください)。

矯正施設・更生保護施設に関しては、近年の法改正ともなう活発な当局側の依頼に対し重大な関心を払っています。広報・病院施設委員会の中に矯正等に関する小委員会としての集まりを常任理事会承認のもとに設置しました。担当理事のもとに各地域から7名の委員を任命し編成いたしました。現在、次年度の評議会に向けての活動計画の立案を考えています。全国のAAメンバーの協力をいただきながら「今、苦しんでいるアルコールク」のソプラエティ(幸福)に、何が出来ののかを考え実行していきますのでよろしくお願ひします。

メンバーがマスメディアを利用する際に役立ててもらおうと考えた、「マスメディアを利用した経験集」の小冊子作成は、現在3つの経験が蓄積されていますが、年内に5つになる予測がつかしましたのでそろい次第、作成し利用していただけるようにと考えています。

JSOのホームページに関しては、AAに関心のある外部のサイトから、JSOのホームページへのリンクが急増しています。これはAAが社会資源として着実に認識されてきた結果だと思ひます。

AA日本ニューズレターは佐古理事(A類)の協力で118号を専門家特集とし、久里浜アルコール症センターの藤田さん(ソーシャルワーカー)から原稿を寄せていただきました。そして各地域へ呼びかけをしていた「ニューズレター委員」は、現在北海道、九州沖縄地域から2名が応えてくれました。全地域からの参加を期待し、今後も呼びかけを継続していきます。(第11回評議会報告書46頁第2回全体会議を参照してください)。

中央省庁への働きかけは、理事会全体として考えています。もう少し時間をいただきたいと思っています。以上簡単ですが、紙面の都合上大まかなところだけ載せましたが、まだAAに参加していない、またメンバー皆様方のソプラエティを確保するために理事会は動いていますのでご理解下さい。

広報・病院施設担当 原田

第4回AA日本広報・病院・施設フォーラム  
in 金沢

## 「地域社会の中でのAA」

開催日時

2006年10月7日(土曜) AM10:00~PM4:00

開催場所

石川県女性センター

石川県金沢市三社町1番44号

JR金沢駅東口より徒歩10分 駐車場80台(無料)

プログラム

AM 9:30

受付開始

10:00~10:15

開会の挨拶

10:15~10:30

開催趣旨説明

10:30~12:00

関係者の話

AAメンバーの話

昼食休憩

13:00~13:30

AA紹介

13:30~15:50

パネルディスカッション

質疑応答など

15:50~16:00

閉会の挨拶

主催 AA日本常任理事会

詳細お問い合わせは中部北陸セントラルオフィスまで

TEL 052-915-1602

<http://park16.wakwak.com/~chco>

## 常任理事会出版委員会

今年度も出版委員会は、JSO出版局と国際デスクの担当も加わって、6名のメンバーで構成されています。4月と10月の年2回委員会を開催し、評議会の勧告の執行と出版に関する諸問題を討議してより一層の業務とサービス活動の円滑化を図って、AAの内外にお役に立ちますように努力を続けています。

## 第1回出版委員会は4月30日に開催

① 新刊「ドクターボブと素晴らしき仲間たち」の3月発刊、新たな装丁での「信じるようになった」の増刷、リーフレットやパンフレット類の在庫切れが、今年の前半から夏ごろに

かけて集中して、かなりの仕事量となることが出版局担当から報告された。在庫切れで部分的に皆様にご迷惑をお掛けすることが生じるかもしれませんが、事情ご理解くださいますようお願いもうしあげます。「日本広報資料」も最新データの内容修正と斬新な表紙で7月末に第3版が発行されました。関係者へのメッセージにご利用ねがいます。

② ビデオ「ホープ」もボランティアの協力で、DVDに2行の簡潔な字幕も入り、視聴結果も評判がよく、秋ごろの頒布予定。内外での活用を期待しています。

③ 「BBの大型版」A4サイズは最初100冊程度の作成予定で安価で仕上がるよう検討されました。大変な作業なのでかなりの時間が必要です。しばらくお待ち願います。

④ その他、新刊として「アラノンのガイドライン」、改訂版「ベストオブビル」が完成しました。

### 出版委員会のなかの小委員会としては

① BOX-916 精選集発行小委員会があり、出版担当常任理事が窓口となって、印刷などの業務は出版局が関わり、年1回の発刊を企画編集しています。今年はアメリカAAグループバイン社発行の既刊の月刊誌「GRAPEVINE」から精選された翻訳特集第2段が第4巻として6月に発行されました。為になるすばらしい内容の紙上ミーティングなので、多くの仲間に購読をお勧めします。残念なことに、あまり仲間には知られていないようなので、新しい仲間への贈呈などに是非ご活用ねがいます。96ページで300円と廉価です。

### ② オリジナル版作成小委員会

長期的企画として、日本の現状に即したアルコールの経験を描いたコミックの作成の試みです。まだAAを知らない仲間や関係者たちへのメッセージや広報への活用を考えています。

アメリカカナダ評議会公認出版物のコミック「ジョーに起こった出来事」と「それはアリスに起こった」を現在仮翻訳して、それを参考にして日本オリジナル版コミックを考えていく。近々第1回小委員会を開催する予定で進行しています。来年の評議会に議案として原案を提出できるようボランティアともども頑張っています。

なお月刊誌「BOX-916」編集委員会が編集に関しては自立的活動を行っていますが、常任理事会出版担当常任理事の責任預かりの位置付けになっています。要望やご意見などはJSOまでお寄せください。

報告者 出版担当常任理事 新村

### AA日本サービスガイド改訂小委員会（企画担当）

企画担当理事 小泉

第1回サービスガイド改訂小委員会が開かれました。改訂への着手は来年の全国評議会での評議会憲章などが承認されたからという手順で、今年の仕事として決まったことは、各グループが改訂をどのように捉えているかの声をまとめたというものでした。どのような改訂が望ましいか、来年の評議会でも議論されますが、そのために現在の各グループの声を聞く必要があるのではというのが主旨です。

この6月に各グループ宛にJSOから改訂のアンケート用紙を発送させていただきましたが、返送されたのはこの8月9日現在で9通です。お忙しい日々とは存じますが、この数字では集計になりませんのでメンバー各位のアンケートへのご協力を再度、強くお願いさせていただきます。

小委員会の中で、以下のような意見交換がありました。

- アメリカ・カナダのサービスマニュアルにあるものはガイドには載せない。
- 各地域のサービス構成の現状を載せる。
- 今現在、地域割りや選挙方法、評議会の今後など流動的な面が感じられる。
- サービスガイドは一冊の製本でなく、パーツごとに別れたファイル形式はどうか。
- 今年の小委員会開催は今回1回とし、メールなどで意見交換をする。
- 各国のオリジナルサービスマニュアルの現状を知りたい。

### AA日本サービスガイド改訂に伴うアンケート

#### A. あなたのグループでは、AA日本サービスガイドはよく使われていますか？

1. 良く使われています。
2. サーマニュアルを補足するものとして参考に使われています。
3. ほとんど使われていません。
4. その他( )

#### B. サービスガイドの改訂内容について:

1. 現状のサービスガイドの簡単な手直しでよい。
2. サーマニュアルを補足する、マニュアルとの重複箇所を記載しない、なるべくシンプルなものが多い(現状のサービスガイドの簡素化)。
3. サーマニュアルに取って代わるほど充実した内容がよい。
4. その他( )

#### C. AA日本サービスガイドが扱うべきサービス分野は何ですか？

1. 評議会を中心としたゼネラルサービスのみ
2. ゼネラルサービスと(セントラル・オフィスを中心とした)ローカルサービス両方
3. ゼネラルサービス、ローカルサービス、グループサービスなどあらゆるサービス
4. その他( )

#### D. 今後サービスガイドに期待する役割は何ですか？

1. 日本の各地域の現状や違いを解説するものがほしい。
2. サービスについて、AA原理(伝統、概念、評議会憲章)に基づく全国共通の認識が育つような指針を示すものがほしい。
3. 上記の両方の要素を含むものがほしい。
4. その他( )

#### E. 現行のサービスガイドの内容または今後の改訂についてのご意見を

受付期間 平成18年9月末日  
送付先 JSO内 「サービスガイド改訂小委員会」

### 評議会担当・事務局の活動報告

評議会担当理事(小林) 評議会事務局長(水谷)

#### 1. 評議会報告書の作成・全グループへの送付

AA日本第11回全国評議会が成功裡に終了した後、評議会書記団の皆さんのご努力下、3月に会議記録のテープ起こしが終了し、4月に作成・編集、印刷と準備が進み、5月中旬の「月例情報」(「月例グループ報告」の名称を変更)と一

緒に評議会報告書を各グループの代議員にお送りすることができました。

これは昨年より1か月早く、書記の皆さんのご努力と評議会参加者メンバーのご協力によるものです。

深く感謝申し上げます。

評議会の一昨年の第9回報告書は440ページありました。それを昨年の第10回報告書では184ページと半分以下に整理・縮小し、今年の第11回報告書はさらに136ページまで整理・縮小しました。

これは、AA日本および評議会の支出の削減に努めた結果ですが、反対の声として、報告書はもう少し詳しくないと解りにくい等の意見も寄せられています。

## 2、来年度に向けての話し合いを

6月のグループへの連絡文書の中に、来年2月の第12回全国評議会の開催に向けたお知らせを同封させていただきました。

お知らせした中身は、①報告書を読んでいただくこと、②そして日頃のAAミーティングやメッセージ活動、仲間同士のふれあいのなかで評議会が協議した方がよいことを提案していただくこと、③2008年2月開催予定の第13回評議会のテーマについて提案していただくこと、④そうした提案をすることについて各グループのビジネスミーティングや地区委員会・地域委員会・地域集会等で話し合っていたいただきたいということです。

## 3、来年度の提案事項、テーマの募集！

全グループ、メンバーの皆さんから、2007年2月開催の第12回評議会にて審議する提案や2008年2月開催予定の第13回評議会テーマを募集します。

期限は、いずれも2006年9月10日までとさせていただきますので、ぜひ、積極的にご提案くださいますようお願いいたします。

提案にあたりましては、一つの提案は一枚の用紙に記入していただくこと。そして、それは、一つの委員会の審議に限らせていただくこと。また、提案はグループで話し合った結果でお願いしたいこと。またグループ以外の場合は、地区委員会、地域委員会、地域集会等で話し合った結果でお願いしています。AAは、グループでの回復が基本ですので、できるだけ個人提案は避けていただきたいと思います。

2007年の評議会に向けて、皆様のご協力をお願いするとともに、評議会の開催が近くなりましたら、ご案内しますので傍聴等で参加して見てください。

評議会報告書については、今後ともページ数の削減とともに、分かり易さ、読みやすい編集・作成に努めてまいります。

各グループやメンバーの皆様からの、率直なご意見をお寄せください。

よろしく願いいたします。

## WSM評議員の報告

WSM前期評議員 まさよ

### 国際協力献金

7月20日時点で505,000円となりました。ご協力、どうもありがとうございました。この振り分け先は10月の理事会で決定後、お知らせいたします。

### 第2回モンゴルコンベンション

8月15日からウランバートルで行われるコンベンションにJ.S.Oのツアー、個人参加、合わせておそらく20名弱の仲間とともに馳せ参じる予定です。モンゴルの仲間の力になれるよう、日本での経験をありのままに分かち合ってください。

と思います。

### WSM評議員

WSM後期評議員の金田さんが健康上の理由で辞任されました。よって金田さんの残りの任期(2007年末まで)をつとめる代理を選出することになりました。選出方法は従来までの常任理事会一任ではなく、評議会での決定を踏まえ、評議会構成メンバーによる選挙という形で行われます。9月末には選出される予定です。

永年に渡りご尽力下さった金田さんの一日も早い回復をお祈りいたします。

### ワールドサービスミーティング (WSM)

10月15日から19日、アイルランド共和国の首都ダブリンでの第19回WSMに参加させていただきます。今回のテーマは「無名であるが秘密結社ではない(仮訳)(Anonymous, but not invisible.)」です。詳細については例年のように翻訳した報告書を送らせていただくことになるでしょう。第18回は35カ国から48名の参加があったそうです。今回は何カ国から仲間が参加するのでしょうか。

ということで各地域でWSM報告のお時間をいただけたらと思います。

### アジア・オセアニアサービスミーティング(AOSM)開催

来年7月、第7回AOSMが関東甲信越地域で開催されます。日本で開催されるのは第1回に続き2回目となります。今回は初めて各国からの評議員と日本メンバーとの分かち合いが持たれます。開催日時、場所などが決まり次第、みなさまにお知らせいたします。お楽しみに。

このための協力委員会が立ち上がりしました。毎月第一日曜日の午後を定例としています。詳細はJ.S.Oまでお尋ね下さい。語学力の有無などに関わらず、海外からやってくる仲間を暖かく迎えるハートのある方の参加をお待ちしています。よろしく願いいたします。

## 地域の分かち合い

### 東南アジアのラウンドアップに参加して

きっかけは昨年の8月に遡(さかのぼ)る。

オーストラリアで開かれたAOSMにオブザーバーとして参加した。各国の評議員が集まり熱心な分かち合いがなされたのだが、僕はそこである疑問を感じた。

日本がそうであるように、当然現地で生まれ育ったメンバーが集まるだろうと思いこんでいたのだが、参加した東南アジアの評議員のほとんどは欧米人だった。その疑問はやがて、アジアのAAの現状を自分の目で確かめてみたいという衝動に変わっていった。その頃、シンガポールの評議員から、今年2月にタイでラウンドアップがあると教えてもらった。彼も参加すると言う。僕はごく自然の流れでタイ行きを決意したのである。

バンコックから開催地であるパタヤへ向かった。現地では、シンガポールの評議員で、現在は東京に住んでいる在日コリアンのKOHさんが待っていてくれた。

オープニングで参加国が紹介された。アジア、ヨーロッパ、北米、遠くはブラジルから駆けつけたメンバーもいる。日本からは20名あまりが参加していたが、日本人は私ひとり、あとは在日欧米メンバーだった。総勢600名のうち、ほとんどが欧米人で占められており、アジア系はごくわずかだ。

開催国のタイ人メンバーは5、6人しかいない。

「これではタイのラウンドアップではなく、タイ・パタヤで開かれた欧米人のためのイベントじゃないか。」僕の中の違和感はますます大きくなっていった。

僕が参加した分科会では、タイ及び周辺国のサービス活動をテーマにしたものだった。

タイの総人口7000万人に対し、AAメンバーは僅か50人程度。書籍はピックブックが16年前に翻訳されているが、改訂はなされないまま現在に至っている。大きな社会問題として1000万のエイズ患者を抱えており、アルコール依存症者のための治療施設まで手が回らないのが実情とのことだった。活発な議論が交わされる中、僕なりに知っている日本のAAの歴史と現状、意見を述べさせていただきいた。通訳に尽力して下さったKOHさんには、本当に感謝している。

人の縁に導かれるように、続いて6月にインドネシア・バリのラウンドアップに参加した。パタヤと同じくアジア、オーストラリア、欧米から300人のメンバー集まっていたのだが、ここでも地元のメンバーは10人程度だった。インドネシアの人口は2億4500万人、AAメンバーは約80人。書籍はまだ出版されておらず、ニューヨークGSOからの翻訳認可を待っている状態だ。イスラム教徒が9割を占める国ではあるが、アルコール・薬物依存症者の数は決して少なくはない。タイと同じく、限られた治療施設に入れるだけでも恵まれているとのことだった。

二つの国のラウンドアップに参加して僕が感じたこと。

最初は「ラウンドアップは五つ星ホテルを舞台にした、欧米人の欧米人による欧米人のためのイベント」と思っていた。しかし、地道に場所を選ばず足を運んでいるメンバーは、アジアのAAの灯を絶やしてはならないという思いを胸に、世界各国から集まって来ているのだ。

インドネシアの帰路、シンガポールとタイを訪問し、各地で英語ミーティングに参加した。酷暑の中を訪ね歩いて会場にたどり着いた僕を、どこでも「ようこそ」と出迎えてくれ、AAメンバーで良かったと実感した。英語が得意ではない僕でも、ところどころ聞き取れる単語を寄せ集めて、ステップや伝統のどの部分か話しているのか、なんとなく理解できた。これも、ほとんどの書籍が日本語に翻訳されているおかげである。母国語でAAの文献が読めるのは当たり前だと思っていたが、それはとても恵まれているのだと痛感した。

東南アジア各地でメッセージ活動をしている仲間には現地に住むを決めた人もいるが、大多数はいずれ本国に帰国する人達だ。それでも、自分が生活をしている場でできることとして、自分に起きた奇跡といただいた心の平安を、いま苦しんでいるアルコールリックに伝えようとしている。

自分の足元を大切にしながら、同じアジア人として何かお役に立ちたい。そう気付かされた旅だった。

広島スマイルG 山根

## 矯正施設委員会の立ち上げ

矯正施設へのメッセージと聞くと、怖い、自分にはそんな経験が無い、感動を与えられる経験を持つメンバーでなくては等々、消極的になっていました。昨今の新聞社会面の記事を見ると「仲間では？」と思うことがあり、自分の飲酒時の行動を思

い起こしてみた時、自分は運が良かっただけなんだと思います。飲酒運転はしょっちゅうでしたし、酒を買う金を家族から取り上げられた時は自販機の釣銭口に忘れた金がないかと漁り、いざとなったら賽銭箱の金を失敬すればいいや、という考えにもなっていました。でも、賽銭箱を漁る前にアルコール専門病院への入院となりAAを知ったことで、今、少しの時間酒を止めてもらっています。

もし運が悪かったら自分はどうなっていたかと考えるとぞつとします。仕事や家族を失い、やけになって…

矯正施設へのメッセージは以前より興味がありましたが、自分の前に多くの壁が立ちただかかっていました。消極的な考えもそうですが、方法が分からない、一緒にやってくれる仲間がいない、当局で受け入れてくれるのかなどいろいろありました。

1年程前、矯正施設へのメッセージを行っている静岡地区のメンバーから、明治41年に制定された「監獄法」が、受刑者処遇法という新しいものに替わるので受刑者の社会復帰に向けた処遇も充実されるようになり、当局よりAAへの接触やメッセージ依頼(去年、名古屋刑務所からCHCOにメッセージ依頼有)が今後増える可能性があるため、地区として要請があった場合の対応を考えて欲しいとの提案がありました。一番大きな壁が開かれ、当局のほうから要請が来る可能性がある状況に変わりつつあるのです。地区委員会の中で分ち合いましたが、先に述べたような消極的意見もあった中、要請があった時AAとして何も出来ないということはしたくないという仲間の意見もあり、地区委員会で地区の矯正施設委員会設立の承認を得ました。現在、実際のメッセージ活動は行っていませんが、要請が来た時どのような形でメッセージを行うかをAA側から提案出来るようにするために、既にメッセージ活動を行っている関東甲信越地域から学ぼうと、過去の矯正施設委員会報告書を読んだり、実際に委員会に参加して情報収集を行っています。

先日も関東甲信越地域で開かれた、矯正施設パブリック・ミーティングで仲間や矯正施設、更生保護施設に従事する方々の意見交換に参加しましたが、仲間の経験談から最終的な行動に至ってしまう前の酒に対する自分自身の葛藤は誰も同じで、その苦しみを分かち合っていくことの重要性を再認識しました。

また、所内での酒害教育は、今まではビデオや専門家による講話が中心でしたが、アルコール依存症という病気を受け入れるためには同じ苦しみを経験した者同士の分かち合いが有効と当局側も考え始めて来ているそうです。

自分も以前はアルコール依存症という病気を理解出来ず、酒を止める方法も分からず一人で苦しんでいました。病院でAAメッセージに出会いAAを知りましたが、同じように一人で苦しんでいて、AAを知らない未来の仲間が矯正施設内にも沢山いると思います。そんな仲間、アルコール依存症は病気であり、自分達はAAミーティングに参加し、酒を飲まないで生きているという経験を伝えられるよう、今後も活動をしてゆきたいと思います。

今回の活動の中で多くの仲間と出会い、貴重な意見や経験を聞くことができました。今後も矯正施設へのメッセージに関する分かち合いが、地区、地域を越えて活性化して行くことを望んでいます。また、仲間が「いつか、刑務所の中でAAミーティングを開きたい」と言っていました。時間がかかるかもしれませんが、それが実現することを願っています。

静岡 まさ

## AA日本ニューズレターNo. 119

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.aa-japan.org>